

1. 応急仮設住宅入居状況（令和元年9月30日現在）

(1) 入居戸数

()内の数値は H31.3.31 現在

総戸数			特定延長	対象外	合計	左記内訳(居住地域別)			
						①市内に居住		②市外に居住	
						特定延長	対象外	特定延長	対象外
			10 (28)	1 (2)	11 (30)	1 (11)	0 (1)	9 (17)	1 (1)
被災場所	市内		9 (24)	1 (2)	10 (26)	0 (7)	0 (1)	9 (17)	1 (1)
	市外		1 (4)	0 (0)	1 (4)	1 (4)	0 (0)		
上記内訳 (居住施設別)	① プレハブ仮設		0 (4)	0 (1)	0 (5)	0 (4)	0 (1)		
	被災場所	市内	0 (4)	0 (1)	0 (5)	0 (4)	0 (1)		
		市外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	② 住田仮設(中上団地)		0 (0)	1 (1)	1 (1)			0 (0)	1 (1)
	被災場所	市内	0 (0)	1 (1)	1 (1)			0 (0)	1 (1)
		市外							
	③ みなし仮設		10 (24)	0 (0)	10 (24)	1 (7)	0 (0)	9 (17)	0 (0)
	被災場所	市内	9 (20)	0 (0)	9 (20)	0 (3)	0 (0)	9 (17)	0 (0)
		市外	1 (4)	0 (0)	1 (4)	1 (4)	0 (0)		

(2) プレハブ仮設の状況

①最終退去

- ・令和元年5月31日
- ・長洞仮設(被災場所：市内1名)

②仮設撤去・借地復旧状況

- ・地ノ森仮設撤去(工期：9月30日)
- ・長洞仮設撤去(工期：12月31日)
- ・大立仮設借地復旧(R2年2月末完了予定)
- ・他34箇所は撤去、借地復旧済

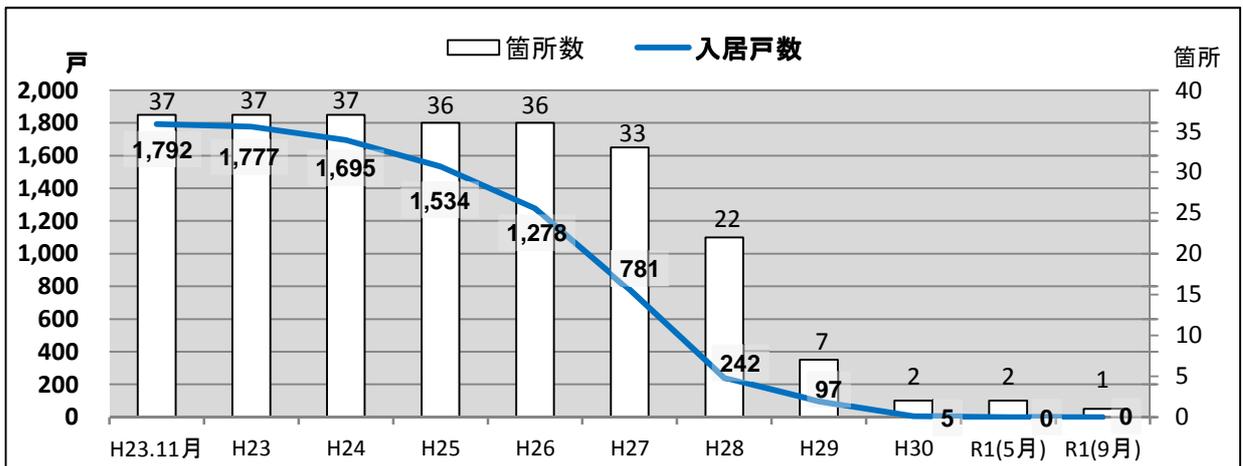
(3) 住田仮設の状況

- ①退去予定 年度内(1戸) ※荷物保管のみ
- ②再建計画 災害公営住宅に入居済

(4) みなし仮設の状況

みなし仮設 所在地	戸数	再建計画	
		再建種別	時期
盛岡市	3	災害公営(盛岡市)	R3.3
紫波町	1	災害公営(盛岡市)	R3.3
矢巾町	1	民間賃貸(盛岡市)	R2.3
北上市	2	災害公営(北上市)	R2.3
奥州市	1	災害公営(北上市)	R2.3
県外(大阪府)	1	災害公営(盛岡市)	R3.3
大船渡市 (被災場所：市外)	1	区画整理(陸前高田市)	R2.3
計	10		

(5) プレハブ仮設入居状況の推移（年度末現在）



※1. プレハブ仮設の全整備戸数は1,801戸

※2. 入居戸数のピークはH23.11月(1,792戸：4,531人)

2 災害公営住宅について（令和元年9月30日現在）

(1) 災害公営住宅の整備・入居状況

	団地数	整備戸数	入居戸数		入居者数	うち一般		
			うち一般	割合		うち一般	割合	
市管理	22	539	506	53	10.5%	890	101	11.3%
県管理	3	262	226	-	-	412	-	-
計	25	801	732	53	7.2%	1,302	101	7.8%

※H30.11月から一般入居開始

(2) 入居者等のうち65歳以上、単身者等の割合

	入居者数	うち65歳以上		入居戸数	うち単身戸数		単身・65歳以上戸数	割合
		割合	割合		割合	割合		
市管理	890	395	44.4%	506	265	52.4%	172	34.0%
県管理	412	152	36.9%	226	117	51.8%	79	35.0%
計	1,302	547	42.0%	732	382	52.2%	251	34.3%

(3) 団地会等の設置状況及び地域公民館との関係

	団地会等設置		団地会等未設置
	地域公民館として独立	地域公民館に班として所属	地域公民館に班として所属
市管理	3	9	10
県管理	2	1	0
計	5	10	10

(4) 入居者のコミュニティ形成支援

① 支援の概要

災害公営住宅における団地会等の役員体制の構築や運営サポート、住民活動や地域交流活動の活性化が図られるよう、大船渡市復興支援員（コミュニティサポーター）等の伴走型支援による恒久的なコミュニティの構築を目指し、平成27年9月から継続的な支援を行っている。

② 現状

- ・今年度より4名の支援員とアドバイザー（岩手大学特任助教）を委嘱して対応。
- ・これまでの支援により、団地ごとの役員体制の構築や規約作成のための支援が一段落し、団地会等の運営が軌道に乗りつつあることから、令和3年3月までに自立することを目指していく。
- ・平成30年7月以降、訪問回数は減少傾向だが、団地会等の総会前に相談が多くなる傾向。

③ 今後の取り組み

- ・入居者同士の見守り体制構築の一環として、ラジオ体操やサロンなど、住民同士のつながりづくりに繋がるようなイベント等のマッチング支援を強化するとともに、支援員がイベント等へ共に参加することにより、入居者の生活状況等の一層の把握に努める。
- ・一方で、入居者の中には、イベント疲れも見受けられるため、入居者のニーズに見合った支援メニューの提供を検討する。
- ・団地会等の運営面では、ようやく軌道に乗った団地会等が、役員改選により運営のノウハウが承継されないことがあるため、マニュアル作成等の支援を行う。
- ・支援活動を通して得られた団地ごとの課題に対しては、解決に向けた活動目標を設定しながら支援を行っていく。